

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						掲載ページ
							172
コスト	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		43,548 千円 <small>「のびのび赤ちゃん訪問事業」の総額 本事業はその一部</small>	47,627 千円 <small>「のびのび赤ちゃん訪問事業」の総額 本事業はその一部</small>	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。	活動実績	活動結果は下記のとおりです			
活動計画	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等でその居室において面接して情報を提供します。また、訪問により、養育支援の必要な家庭を把握し、支援に繋がります。					
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） <small>（上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	専門職による訪問数	6,273 件	適切な訪問	6,403 件	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	全戸訪問により母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため、活動指標としました。 <small>（最終目標と最終年度）</small>					順調
	（最終目標と最終年度）				やや遅れ	順調
（最終目標と最終年度）				遅れ		

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 子どもの出生数は減少していますが、事業全体の訪問割合や子育て支援を必要とする家庭への保健師、助産師等の専門職による訪問数は増えています。また、地域支援者（主任児童委員）による地域に住む人ならではの情報提供や関わりも定着してきており、専門職と地域支援者それぞれの強みを活かした活動が展開されていることから順調と評価しました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 無償で活動している地域の主任児童委員の協力のもと、現在のコストで事業を維持できています。出生数は減っても、専門職の訪問対象である養育支援の必要な家庭は増えてきており、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行います。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
 今後も関係機関と連携し、より効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	乳幼児健診における問診項目の見直し						掲載ページ
							172
コスト	事業費	平成25年度執行額 24,709 千円	平成26年度予算額 27,660 千円	政策分野 施策名	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部		障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	母子保健調査研究事業（小児保健研究会）において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。					
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	問診項目の見直しの推進（検討会の設置）	3 回	検討会の実施	4 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施し、乳幼児健診の項目を見直すことで、発達障害を早期に発見し、支援に繋げることができることから、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）					順調
	（最終目標と最終年度）					遅れ

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 検討会で話し合った結果、問診項目の見直しだけでなく、確実な問診等により、発達障害の早期発見の精度を上げることが必要だと判断しました。医師会のマニュアル検討委員会で検討を行い、幼児健診の健診項目及び健診時のマニュアルの見直しを終了したので順調としました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 保健指導をより効果的に行うため、関係機関と連携し、事業目的は達成したため、事業は平成25年度で終了します。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

問診項目の見直し事業としては平成25年度で終了します。今後は、改訂した問診結果を保健指導にいかしていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	乳幼児発達相談指導事業(わいわい子育て相談)の拡充						掲載ページ
							172
コスト	事業費	平成25年度執行額 24,709 千円	平成26年度予算額 27,660 千円	政策分野 施策名	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	「すくすく子育て支援事業」の総額 本事業はその一部	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	わいわい子育て相談の実施回数 発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の実施回数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	104 回	168 回	104 回 61.9 %	大変順調 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	わいわい子育て相談の参加者数 発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要であるため、わいわい子育て相談の参加者数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)	364 人	増加	352 人	やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 区によっては相談待機者が出ることもありましたが、多くの専門職種が関わる事業であり、開催回数を増やすためには調整が必要であることから現状維持に留まりました。その後のフォローの場である「親子遊び教室」については、これまで実施していなかった門司区でも開催されるようになったことから、社会資源の充実とみなし順調としました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 医療関係者等の専門職が実施しており、多職種による多角的視点による相談支援がこの相談の特徴なので、これ以上のコスト削減は困難です。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防につながります。発達が気になる乳幼児に対する早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、確実な開催や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。発達が気になる乳幼児を早期に支援するために、相談事業の拡充や連携体制について、関係機関と協議し、効果的な事業の推進を図ります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	障害児保育の充実							掲載ページ	
								172	
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		187,636	千円	201,500	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、統合保育の可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	統合保育の可能な障害児を通常保育だけでなく、延長保育、一時保育での受け入れを行います。また、統合保育の可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。		

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	通常保育における障害児の入所可能施設数	障害児の受け入れを全保育所で行っていることから通常保育における障害児の入所可能施設数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	158 施設 (100)%	160 施設	160 施設 100.0 %	大変順調
特別保育事業における障害児の入所可能施設数 保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保育のみならず特別保育事業においても、一時、延長保育の実施保育所で障害児の受け入れを行っていることから、特別保育事業における障害児の入所可能施設数を指標としました。 （最終目標と最終年度）延長保育153施設 一時保育64施設		(延長保育) 145 施設 (一時保育) 63	(延長保育) 148 施設 (一時保育) 67	(延長保育) 148 施設 (一時保育) 67 100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	<p>活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>障害児の受け入れが、全認可保育所(160施設)において可能な状況の中、平成26年3月1日において、109施設で322名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児18名を受け入れました。</p> <p>障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることができたことから順調としました。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れていること、なおかつ就労を希望する保護者の増加が見込まれることから、障害児保育のニーズは高まると予想され、有効性は、高いと思われます。</p> <p>現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。</p>
-----------	--	--

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

本事業は、児童の福祉向上に資するところも大きく、保護者の就労支援、子育て支援を図る上で施策に対する有効性も高く、今後も関係機関との連携、研修、会議等内容を工夫しながら、保育の質の向上を図り、着実に取り組むことが適当だと考えます。今後も継続して事業を実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	親子通園クラスの設置						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		1,431	千円	2,901	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	直営保育所で「親子通園クラス」を運営し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。						
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	親子通園クラスの利用者数		269 組	200 組	217 組	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示すには、親子通園クラスの利用者数が適当と考えられるため、指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）7ヶ所、平成26年度				108.5 %		
						やや遅れ	順調
（最終目標と最終年度）					遅れ		

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小倉北区東篠崎保育所と八幡西区黒崎保育所の親子通園クラスで、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ127組、東篠崎保育所は延べ90組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も62%を超え、移行支援としての成果も出ていることから順調としました。なお、本事業は全国的に先駆けた事業です。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経費資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

実施している2ヶ所について検証していきながら、関係機関との連携、PRを行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対して、継続した支援を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,825	千円	2,916	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所や幼稚園、知的通園施設、入所施設、特別支援学校等で市民が気軽に相談できるような体制を整えるため、障害児療育専門機関による職員への技術的支援を行います。					
活動計画	今年度も社会福祉法人に委託し、保育所等へ障害児療育の専門職員を派遣します。						
活動実績	活動実績は下記のとおりです。						
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
活動指標	施設一般指導事業実施件数	161 件	維持	154 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	<small>障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術的指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)</small>						
活動指標	保育所等訪問支援事業の実施件数	未実施	増加	183 件		順調 やや遅れ 遅れ	
	<small>保育所等訪問支援は、障害児へ支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関り方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)</small>						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校などのからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成25年10月より、給付サービスの一つである保育所等訪問支援を3つの児童発達支援センターで開始しました。保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援事業による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備（保育所等）							掲載ページ
								173
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課
								子ども家庭局
								子ども総合センター

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	児童福祉法に基づく児童福祉の専門的行政機関として、児童相談所（子ども総合センター）において、相談、指導、心理・障害判定、一時保護などの業務を行っており、児童虐待、非行、不登校などの様々な課題を抱える子どもや保護者に対応するため、カウンセリングやケースワーク、関係機関との調整、連携により適切な支援を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	子どもや保護者などの相談者に適切な支援等を行うため、各種取組みを着実に進めていきます。							
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		→	【活動の状況】
	児童相談受付件数		5,895 件	単年度目標設定なし	6,212 件	大変順調	順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	児童に関するあらゆる相談を受け付けた件数であり、児童福祉に関する専門的行政機関としての活動を最も端的に示すデータであることから指標に掲げました。 （最終目標と最終年度）				— %			
						順調	順調	
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童相談受付件数は、前年度並みに推移しています。相談者のニーズには、適切に対応するとともに、適時的確に支援を行っていることから、順調としました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	運営に係るコストについては、最小の経費で最大の効果を挙げるという組織管理の基本的理念に基づき、計画的かつ効率的な予算執行に努めてまいります。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
<p>児童相談所（子ども総合センター）は、児童福祉法で政令指定都市に設置が義務付けられた行政機関であり、児童福祉の専門的機関として、児童を取り巻く多種多様な課題等に対し、迅速かつ適切に取組むことが必要です。 今後とも、次代を担う子どもの健やかな育成のため、関係機関等との連携を密に図りながら、より効率的、効果的な事業運営に努めてまいります。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	専門機関との連携による保育所での発達支援の充実							掲載ページ	
								173	
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		0	千円	0	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	保育課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。					
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	専門機関と連携した発達障害児の支援	—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。 （最終目標と最終年度）	—	—	—		
	保護者支援の取り組み	—	—	—	順調	順調
保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合い、共通理解を深めながら、個別の支援計画を作成し、保護者の悩みなどを支えます。子ども一人ひとりの状況に応じ、専門機関との連携を図ります。 （最終目標と最終年度）	—	—	—	やや遅れ 遅れ		

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組んだことから、順調としました。 一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施しています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

今後とも専門機関との連携を図り、保育士の発達障害への理解を深め、保育所における対応のあり方など研修を通して、支援の充実を図ります。また、発達障害児に関わる他局と連携し、職員間での交流を図り、一貫した支援を行える体制作りに取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		69,063	千円	69,758	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価					
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。				活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動計画	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。								
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)			前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数			161 件	維持	154 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)								
	保育所等訪問支援事業の実施件数			未実施	増加	183 件		順調 やや遅れ 遅れ	
保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関わり方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度)									

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成25年10月より、給付サービスの一つである保育所等訪問支援を3つの児童発達支援センターで開始しました。保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかははっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援事業等による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	総合療育センターの機能の強化						掲載ページ		
							173		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		2,824	千円	2,916	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医師をはじめ臨床心理士などの専門スタッフの充実等を図るとともに、「総合療育センター」の地域支援室による地域の保育所、幼稚園や通園施設等への支援の強化や市西部地区の障害のある子どもの支援について検討します。（総合療育センターは指定管理者が運営）					
活動計画	医師確保に向けて大学医局への働きかけ等、必要な支援を行うとともに、機能強化に向けた取組みを継続します。						
活動指標	指標 <small>（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	施設一般指導事業実施件数	161 件	維持	154 件		活動実績は下記のとおりです。	
	障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児（者）の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 <small>（最終目標と最終年度）</small>					大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	<small>（最終目標と最終年度）</small>				順調	やや遅れ	
	<small>（最終目標と最終年度）</small>				遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関する保育所や学校からのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
総合療育センターは、再整備に向けて基本計画が策定されました。平成28年に西部分所開設、平成30年に本体開設予定です。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	医療機関との連携強化						掲載ページ
							173
コスト	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		45,591 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	44,776 <small>「発達障害者総合支援事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	医療従事者を対象に、発達障害に対する理解を促進します。				
活動計画	医療機関での発達障害者に対する対応方法に役立てるために、医療従事者向けパンフレットを作成します。		活動実績	活動実績は下記のとおりです。		
活動指標	指標 <small>（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	パンフレットの配布数	-	増加	2,700 部		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	医療従事者へ発達障害の理解を広く促進するためには、発達障害の特性についてわかりやすいパンフレットの作成が必要だと考え、パンフレットの作成数を活動指標として掲げました。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	<small>（最終目標と最終年度）</small>					

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年度から平成24年度は、医療従事者を対象とした研修会を実施しています。発達障害に関する基本的な理解と対応方法についての研修会や、歯科医療における実践報告によって具体的な支援手法について学ぶ研修会を実施しました。平成25年度は、医療従事者向けパンフレットを作成しました。発達障害の方は、どのようなことが苦手なのか、また不安があって落ち着かないときはどのように対応したらよいのか等を記載したパンフレットを2700部作成することができ、成果は順調であると判断されます。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	北九州市内の発達障害者支援の中核を担っており、平成22年度から平成25年度まで医療従事者を対象とした研修会を行ってきた発達障害者支援センター「つばさ」に、医療従事者向けのパンフレットの作成を委託することで、より医療従事者への発達障害の周知に役立つ、わかりやすいパンフレットの作成が低コストでできたと判断されます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

医療の現場においても、発達障害者の特性に適した対応が必要なことから、今後も医療機関との連携強化を実施し、対応方法に役立つように、医療従事者にパンフレットを配布します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	特別支援学校のセンター的機能の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		7,881	千円	— <small>(事業統合のため未記載)</small>	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 特別支援学校がセンター的機能を持ち、相談支援を他の特別支援学校や関係機関と連携しながら実施し、地域の小・中学校等への助言援助を行える状態を目指します。			活動実績	特別支援相談室については、特別支援教育相談センターとの連携により特別支援学校の機能を充実させたため、設置の必要がありませんでした。		
活動計画	特別支援教育相談センターと連携し、障害のある児童生徒や保護者への効果的な助言援助を行います。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	保育所・幼稚園・小中学校の要望に対する助言援助の充足率		100 %	100 %	100 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	特別支援教育相談センターと連携し、効果的な助言援助を行います。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度)				100.0 %		
	特別支援相談室の設置		0 校	3 校	0 校	順調 やや遅れ	順調
特別支援相談室を設置することで、地域の小・中学校等の相談支援体制が充実します。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度)		— %			遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 市内の園、小・中学校の約8割が特別支援学校のセンター的機能を活用しました。特別支援学校内の特別支援相談室の設置計画が滞っている状況ですが、特別支援学校のセンター的機能による取組を推進することにより相談機能の強化が図られるため、新たに設置する必要がなくなりました。以上のことから、「順調」と判断しました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 現在文部科学省の推進事業の中で行っていますが、今後も幼、小、中・高校等では必要度が高いことが予測されるため、費用対効果は高いといえます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
特別支援教育相談センターが行う支援と役割を明確にした特別支援学校のセンター的機能の充実を図ることで、特別支援教育を推進する体制の整備を図り、保育所・幼稚園や小・中学校等への支援を進めます。特別支援学校のセンター的機能の中核となる特別支援学校コーディネーターを育成します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	新生児聴覚検査事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	子ども家庭局
		12,843	千円	14,100	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 聴覚の障害を早期に発見し療育を開始することで、コミュニケーション形成や言語発達に効果が得られるため、新生児に対して行う聴覚検査費用の一部を助成します。また、検査で聴覚障害が発見された場合には、早期療育に取り組むための支援を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	聴覚の異常を早期に発見し支援することで、言語発達に効果があることから、関係機関と連携を図りながら、事業を継続します。					
活動指標	指標 （数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	聴覚検査実施件数	6,625 件	適切な実施	6,505 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	早期に発見することで早期療育につながることから、活動指標となりました。 (最終目標と最終年度)					大変順調
						順調
	(最終目標と最終年度)				やや遅れ	遅れ

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 平成25年度は、新生児6,505人が検査を受けており、その結果、精密検査が必要な乳児に対して、保健師等が訪問などを実施してフォローアップを実施できたことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 聴覚の異常を早期に発見するための検査として有効です。現在、検査料の半額は自己負担としています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること

今後も、関係機関と連携しながら、この検査が早期発見、早期療養に繋がるよう支援をしていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	北九州市障害者基幹相談支援センターの運営(旧:北九州市障害者地域生活支援センター)						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		121,689	千円	126,926	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	障害者相談支援事業を実施する「北九州市障害者基幹相談支援センター」(ウェルとばたに内)の運営を北九州市障害者相談支援事業協会に委託して、障害者及びその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や権利擁護のための必要な援助を行うことにより、障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになります。					
活動計画	障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。						
活動実績	活動実績は下記のとおりです。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	障害者基幹相談支援センターの相談件数	21,112 件	増加	23,484 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	障害児(者)が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにするため、障害者地域生活支援センターが障害児(者)やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と最終年度)平成29年度 43,669件					大変順調	
	(最終目標と最終年度)				順調	やや遅れ	
					遅れ	順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 広報活動の促進や、各種研修会を開催することで障害者基幹相談支援センターの知名度を上げることができ、相談件数は前年度より大きく増加しました。これにより多くの障害者及び家族等の悩みなどに対応することができたと推測されますので、成果の状況は順調と判断しました。 本事業は、障害者が日常生活を安心して送り、地域で暮らしていくために必要不可欠の事業であると考えられます。
	「経済性」「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 業務の簡素化、効率化を図るため、専門家のいる障害者相談支援事業協会に委託し、迅速な問題解決を図っています。これにより、職員の異動に左右されず長期的な相談人材の育成が可能になります。また、3障害への対応を1ヶ所で行うことにより障害種別、状態や年齢を問わない相談支援が可能となり、効率的に相談支援が実施できていると考えます。しかし、相談内容が専門化・複雑化する傾向にあるため、今後は、より効率的な相談支援体制の構築を検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
平成26年度以降も引き続き、出前相談など丁寧な相談支援方法をとることにより、障害のある人が自立した日常生活や社会生活を営むことができるようになります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	おもちゃライブラリーの運営						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	保健福祉局
		776	千円	750	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	障害児の障害程度・種別に応じ、療育と教育の一環として、おもちゃを通じて、身体的・精神的発達を促すため、おもちゃの貸出、研究及び相談を行います。						
活動計画	東館、西館、と2ヶ所の分館で、おもちゃの貸し出し等を行います。						活動実績	活動実績は下記のとおりです。
活動指標	指標 <small>（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）</small>	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】		
	おもちゃの貸出点数	345 点	-	384 点		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	「おもちゃの貸出点数」の増加が、利用者の満足度の高い事業である判断基準と考えられることから、活動指標として掲げました。 <small>（最終目標と最終年度）</small>							
						大変順調	順調	
<small>（最終目標と最終年度）</small>					順調 やや遅れ 遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	西館がコムシティに移転した関係で、やや足が遠のいた利用者などがいた関係で、西館の利用者が減少しましたが、安定した件数を貸し出しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	おもちゃライブラリーを運営するために設立した無償ボランティア団体に委託しています。したがって最も経済効率が良いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
今後、西館移転後の利用者数に留意し、必要に応じてチラシの配布や広報掲載などの周知活動を行っていく必要があります。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	特別支援教育相談センターにおける相談事業						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		27,361	千円	33,705	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	特別支援教育相談センターが専門性のある相談機能を備えている状態を目指します。		活動実績	巡回相談や教育相談では、事例の実態から必要に応じて専門相談員を同伴する、専門家チームを派遣する、学校におけるケース会議に参加するなど他機関と連携して相談を進めるなどして、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例等に対応しました。		
活動計画	相談事例に合わせて専門相談員（臨床心理士）を同伴したり、複数の相談員で対応したりして多面的に実態把握を行い、より専門的な相談支援を行う等の学校指導・支援を強化します。また、改善が難しい相談事例に対しては、集中して複数回の相談支援を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	巡回相談（専門相談員が行った相談回数）		68 回	75 回	223 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	巡回相談に申し込みのあった事例の実態に合わせて専門相談員を同伴し、多面的に実態把握を行い、専門性に裏付けられたアセスメントができるようにします。このため、当該指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）				297.3 %		
	巡回相談・教育相談（専門家チームが学校を訪問した実数）		7 校	7 校	7 校	順調 やや遅れ	大変順調
巡回相談や教育相談において、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の中でも、医療スタッフの専門的なアセスメントが必要な事例は専門家チームを派遣し、効果的な相談を行います。このため、当該指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）		100.0 %			遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	<p>就学相談は、自閉症・情緒障害特別支援学級への申し込み数の増加に対応するために、医師の診察回数を増やしました。通級相談の申し込み数の増加には、相談日を増やすことで対応しました。システムを改善したことで就学相談や通級相談の増加した申し込みへの対応がスムーズにできました。</p> <p>また、専門相談員や専門家チームを活用することで、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例の相談においても専門的なアセスメントを助言することができ、保護者・学校・園にとって手厚い支援ができています。</p> <p>以上のことから、「大変順調」と判断しました。</p>
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各相談業務とも相談件数及び、主訴の改善が困難な事例や障害に起因する二次障害が顕著な事例が増加しています。費用対効果は高いと言えます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
<p>特別支援学校のセンター的機能との連携を密にして効果的な相談支援の在り方を具体化します。</p> <p>早期支援コーディネーターや臨床心理士、言語聴覚士など専門家を配置することで相談内容の複雑化・多様化にも対応できるようにします。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	特別支援教育を行う場の整備						掲載ページ		
							174		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		600,295	千円	1,468,124	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	企画課 特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	特別な支援が必要な児童生徒の状況や学校の設置要望等に応じて、適切に設置できている状態を目指します。		活動実績	特別な支援学級の設置校が129校に増え、地域に根ざした特別支援教育の推進が図れました。 東部地域における新設校の実施設計を策定しました。		
活動計画	特別支援学級においては、新設条件を満たしている場合は速やかに県に新設要望を申請します。また、通級指導教室においては、児童生徒の収容能力が限界に達していることを強く県に訴え、新設や増設の申請を継続します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	特別支援学級の設置校数		114 校	120 校	129 校	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、必要に応じ、適切に設置していくため、当該指標を設定しました。特別支援学級設置校数を73校から120校に増すことを目指します。 (最終目標と最終年度)25年度 120校				107.5 %		
	通級指導教室の設置区		7 区	7 区	7 区	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調
児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、必要に応じ、適切に設置していくため、当該指標を設定しました。通級指導教室を全区に設置することを目指します。 (最終目標と最終年度)		100.0 %					

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成24年度に特別支援学級の設置校数は、114校にであったのに対し、平成25年度は、129校に設置することができています。達成率は100%を超えました。以上のことから、「大変順調」と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民の特別支援学級の設置に対するニーズは高い状況です。特別支援学級の設置については、児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、必要に応じ、適切に設置しております。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
児童生徒の障害の状況や地域的な設置状況等を踏まえながら、特別支援学級を教育的ニーズのある小・中学校の全校に設置し、通級指導教室を小・中学校ともに全区に設置することを目指し、特別支援教育の場を充実させます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	特別支援教育を推進する人の配置						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		146,870	千円	146,177	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	適切な支援・指導を図り、障害のある幼児児童生徒の学校生活を安全で安心できるようにします。		活動実績	確保している人材を活用しながら、概ね学校現場からの要望に応じています。		
活動計画	学校の状況を多方面からの情報を基に検討し、人材を効果的に配置することで目的を達成します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	特別支援教育補助講師の配置校数		48 校	48 校	48 校	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	通常の学級及び特別支援学級等における特別支援教育の充実を目指すため、学校の実情に応じて継続して特別支援教育補助講師の配置を行います。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度)				100.0 %		
	特別支援教育介助員の配置校数		19 校	19 校	19 校	順調 やや遅れ	順調
通常の学級に肢体不自由の児童生徒が在籍する小・中学校に対して、特別支援教育介助員を配置し、学習面や生活面での介助を行います。このため、当該指標を設定しました。 (最終目標と最終年度)		100.0 %			遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童生徒数がおおむね5人以上の自閉症・情緒障害特別支援学級に、必要に応じて特別支援学級補助講師を配置することができました。また、特別支援介助員も児童生徒の身体の状態を確認した上で必要に応じた配置ができており、25年度も19名の配置ができました。以上のことから、「順調」と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	学校・園からの要望や必要性を勘案し、適切に配置しています。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
市費講師等を特別支援教育支援員として幼稚園、小・中学校等に配置し、障害のある子どもたちに対して学習指導や生活介助等を行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成25年度実績評価）

事業名	特別支援教育の理解啓発						掲載ページ		
							175		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	特別な支援を要する子どもや家庭への支援	担当局	教育委員会
		2,534	千円	2,834	千円	施策名	障害のある子どもへの支援	担当課	特別支援教育課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 保護者や市民、関係機関等に、障害のある子どもたちや特別支援教育について理解が深まるようにします。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	公開講座について、研修等の場を利用して、積極的に広報活動を行います。また、刊行物を幼稚園・保育所、学校、保護者に広く配布します。さらに、幼稚園・保育所、学校に、可能なものはデータ配信し、保護者への配付依頼を行います。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	公開講座参加人数		199 人	300 人	521 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	(最終目標と最終年度)				173.7 %		
	理解啓発資料刊行数		4 刊行	5 刊行	5 刊行	大変順調	やや遅れ
(最終目標と最終年度)		100.0 %			遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	25年度は理解啓発資料を5種類刊行し、幼稚園・保育所、学校、保護者へ配付するとともに、機会あるごとに活用することを周知しました。また、HPを適切に更新してニーズに応えるようにしました。公開講座では、521人が参加しました。以上のことから、「大変順調」と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	可能なものについては、幼稚園、学校等にデータ配信して保護者への配布依頼をするなど、周知に向けて費用対効果は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成26年度以降に実施すること
これまでの刊行物に加え、新たな刊行物を作成し、幼稚園・保育所、学校、保護者に配付します。ホームページを定期的に更新します。